

1. 単元の見目標

- ・寺津地域で育てられている農作物の種類や場所の特徴、農家の方の思い、寺津の農業の課題について調べ、寺津の農業の特色について理解する。(知識・技能)
- ・寺津の農業の課題を解決するために自分たちにできることを調べたことをもとにして考え、適切に表現する。(思考・判断・表現)
- ・寺津地域で育てられている農作物について知ったり、農家の方の思いに触れたりする中で、寺津地域に対する愛着をもち、地域のために行動したいという態度をもつ。(主体的に学習に取り組む態度)

2. 単元について

(1) 教材観

天童市の寺津地域は、農業が盛んな地域である。統計資料を見ると、「2015年地区別農家人口率：39.6%（天童市内で1番高い）」「2020年経営耕地面積（a）：田9809畑1482樹園地9862」となっている。さくらんぼの時期になると、「昨日さくらんぼの収穫を手伝ってきた。」「私は、ずっと箱詰めをしていた。〇〇君の家は、どんな形の箱に入れているの。」といった会話を子供たちがするようになるなど、子供たちにとっても農業は身近なものとなっている。

天童市全体に目を向けていくと、果樹が基幹作物であり、県下でも有数の産地として発展し続けている。西洋なしの一種ラ・フランスは、天童市が日本有数の産地であり、2020年8月には、山形県産ラ・フランスが地理的表示（GI）として登録されたこともあり、特産品として知名度も高まっている。

果樹については、県下でも有数の産地となっている天童市において、農家人口率が一番高い寺津地域ではあるが、課題もある。それは、農家人口の減少である。「1978年1467人（農家人口率71.9%）」「2010年800人（44.9%）」「2015年656人（39.6%）」と年々減少している。天童市全体の統計でも、「1978年20586人（40.4%）」「2010年9554人（15.3%）」「2015年7756人（12.5%）」となっており、同様の傾向が見られる。また、天童市の農家人口の年齢構成別推移からは、2020年には、60歳以上の割合が51.3%であることが分かり、寺津でも農業従事者の高齢化が進んでいると考えられる。

「令和3年度天童市の農林業山形県天童市経済部農林課」では、「農業従事者の高齢化は、本市のみが抱える問題ではありませんが、労働集約型農業である果樹経営農家が多い本市農業にとっては、大きな課題となっています。こうした本市農業を支えている昭和10年代生まれ農業従事者も、ここ数年のうちに農業から退くことが予想され、この場合、労力不足から農地の耕作放棄や、樹園地の荒廃化が進むものと懸念されます。」と述べている。

寺津の農業と天童市の農業の課題は、共通しているところがあり、農家人口の減少や高齢化は、大きな課題の一つとなっている。

(2) 児童観

本学級の子供たちは、何事も自分事として捉え、意欲的に取り組むことができる子が多い。また、下学年の時からICT機器や思考ツールを活用していることもあり、インターネットを活用して情報を収集したり、X/Yチャートを使って情報を分類したり

する力もある。しかし、地域の人と自分から関わって情報を集めたり、分類した情報をもとに自分の考えを構造化したりする力は、まだ弱い。また、自分の意見を相手に伝える力についても、さらに高めていく必要がある。

「寺津の農業について考えよう」というテーマは、4年生時から続いているものである。まだ、「寺津の農業について考えることができていない。今年度も取り組みたい。」という子が多かったため、今年度も同じテーマで学習を進めていくことになった。

子供たちは、「『寺津の魅力をつくり、伝えよう!』というテーマで活動に取り組み、東京で自分たちが育てた野菜を販売した学年（現在中学2年生）」の思いを引き継いだということもあり、「自分たちで作物を栽培したい。栽培したものをお店で販売したい。」という思いが強い。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の人を対象に学校のグラウンドで販売した。まだ、お店で販売することができていないため、今年度もその思いは強くもっている。

一方で、昨年度末に振り返りでは、「野菜を販売することはできた。地域の方とも関わることができた。でも寺津の農業については、考えることができていない。」という振り返りが多くでた。子供たちは、「寺津の農業について考える」とはどういうことなのか確認した上で、学習を進めていく必要があると考えている。

(3) 指導観

まず、第一次では、「寺津の農業について考える」とは、どういうことなのかを子供たちと確認する。おそらく「寺津の農作物の種類について知ること」「寺津の農家の方の思いを調べること」「寺津の農作物の出荷先について調べること」「自分たちも農業を体験すること」などの意見は出るだろうが、「寺津の農業の課題について知り、その課題解決のために行動すること」という意見は出ないと考える。そこで、「寺津の農業の課題は何か」という視点ももつことができるよう、必要に応じて、教師が「寺津の農業の課題について考えること」もテーマに関わってくることを提示する。

第二次では、野菜を栽培及び販売する活動を行う。農業体験を通して、子供たちは野菜を育てることや売ることの楽しさを知ることができる。子供たちにとって、農業は身近なものである。寺津地域の農業に誇りをもっている子も多くいる。しかし、「自分で育てたものを販売する」という経験は少ない。今年度も地域の方と関わりながら栽培及び販売活動を行うことで、より農業が身近なものとなり、寺津の農業が抱える課題を自分事として捉えることができるようになると思う。

第三次では、寺津の農業の課題について調べ、解決方法を考える活動を行う。地域の方の思いを聞いたり、市役所の経済部農林課に聞いたりして、寺津の農業の課題について迫っていく。寺津の農業の課題の中でも、本單元では「農家人口の減少（高齢化）」に着目する。社会科の学習で、日本の農業の課題について学習している子供たちは、自然とその課題に着目していくと考えられるが、必要に応じて、その課題に着目するよう促す。情報を整理する時には、座標軸を使って「過去→現在→未来」「寺津→天童（山形県）→日本（世界）」といった視点をもたせ、これまでの学習とつなげながら考えることができるようにする。また、課題解決の方法を考える時には、市役所や地元の企業、新聞社など、様々な人と関わる中で考えていくことができるよう支援する。

第四次では、課題解決の方法を伝える活動を行う。伝える方法は、ポスターやプレゼンテーション、動画、プログラミングを活用して作成したゲーム、HPを使ったPRなど、自分たちの思いに適した方法を選択することができるようにする。子供たちが自分たちの考えをまとめる時には、昨年度も指導していただいたデザイナーの方や

保護者の方からアドバイスしてもらう機会をつくる。専門家や地域に住む方の視点を知ること、より相手意識をもつことができるようになることを考える。子供たちは、「寺津の農業のために自分たちにできることをしたい」という思いをもっている。その思いを生かしながら活動を進め、子供たちに達成感を味合わせることで、日々の行動も変わると考える。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

連携性：自分たちの購買行動は、寺津の農業の課題につながっている。

責任性：続けていくにはそこに住む自分たちの行動が大切である。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

長期的思考力：寺津の農業やよさを守り繋いでいくために、数十年先のことを考えて、今、行動することが大切である。

つながりを尊重する態度：人、もの、こと、社会、自然などと自分とのつながり、かかわりに関心をもち、それらを尊重したり、大切にしたりする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正：住みよい寺津であり続けるためには、今から自分たちが行動を起こすことが大切である。

・達成が期待されるSDGs

目標 1 1 【持続可能な都市】 目標 1 2 【持続可能な消費と生産】 目標 2 【飢

餓】

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 寺津地域で育てられている農作物の種類や場所の特徴、農家の方の思い、寺津の農業の課題について調べ、寺津の農業の特色について理解している。	① 寺津の農業の課題を解決するために自分たちにできることを調べたことをもとにして考え、適切に表現している。	① 寺津地域で育てられている農作物について知ったり、農家の方の思いに触れたりする中で、寺津地域に対する愛着をもち、地域のために行動したいという態度を表している。

4. 単元展開の概要（全50時間）

次	○主な学習活動 ・児童の反応	・学習への支援	△評価 ・備考
第一次	○昨年度の活動を振り返る。 ・野菜をお店で販売したい。 ・去年のように振り返りで悩むことがないよう「寺津の農業」ってどういうことなのか確認した方がいい。 ○今年度のテーマを決める。 ・まだ寺津の農業について考えることができていない。 ・寺津の農業の課題を解決するための方法を考えて行動するとういと思う。	・「寺津の農業の課題」という視点を必要に応じて、教師から提示する。 ・自分たちの活動を振り返ることができるよう「寺津の農業」「考えよう」という言葉の意味や定義について、子供たちと話し合い共有する。	
寺津の農業について考えよう			

<p>第二次</p>	<p>○育てる野菜を決め、栽培計画を立てる。 ・「寺津大根」という名前をもっと広めたいから、今年も大根を育てたい。 ・去年は、地域の先生に土作りや畝作り、土寄せなどをやってもらった。トラクターで耕すところはお願いしないといけないけど、手作業でできるところは、自分の力でやりたいな。 ・去年の学びを生かすには、去年と同じ大根を育てた方がいいと思う。</p> <p>○野菜を育てる。 ・見ていると簡単そうに見えたけど、畝を作るのって難しい。 ・45度の角度で桑を土に入れて、ずっと地面に平行に動かしている。真似してみよう。 ・去年よりたくさん植えたから、草取りが追いつかない。美味しい大根を育てたいからがんばらないといけないな。</p> <p>○野菜を販売するための準備をする。 ・大根を販売する時に、これまで学んだことをまとめたものも渡すといいと思う。 ・Google フォームを使えば、食べた後の感想も聞くことができるよ。 ・地域の温泉施設での販売にはなるけれど、去年の販売を生かして準備することができそうだね。</p> <p>○野菜を販売する。 ・たくさん買っていただいてうれしい。 ・県外の人でも買ってってくれたよ。 ・声をかけても反応してもらえないこともあるな。学校での販売は、ほとんどの人が買ってくれたけれど、今回は買ってもらえないことも多いな。</p> <p>○栽培及び販売活動の振り返りをする。 ・地域の人だけでなく、天童市外や県外の人にも買ってもらうことができた。アンケートにも応援メッセージがたくさん書いてあった。寺津の農業のことについて、少し知ってもらうことができたと思う。 ・自分もお店でティッシュを配っている人の話を聞かないことが多い。その人たちの気持ちが分かった。でも、あきらめずに声をかけ続けたら、立ち止まってくれる人もいた。あきらめずに自分から挑戦することは大切だと思った。 ・販売は成功したと思うけれど、寺津の農業の課題について考えてはいないと思う。寺津の農業について考える必要があると思う。</p>	<p>・販売計画と合わせて、栽培計画を立てるよう支援する。</p> <p>・手作業の部分は、できるだけ子供たちで行うことができるよう、事前に地域の先生にお願いする。</p> <p>・子供たちが活動している様子を撮影し、掲示することで、活動の流れを視覚的に振り返ることができるようにする。</p> <p>・問題解決のための選択肢を増やすことができるよう、Google フォームを活用する。子供たちからアイデアが出ない場合には、こちらから提示する。</p> <p>・自分から挑戦したことでのどのような力がついたのか振り返るよう促す。</p> <p>・子供たちが、「寺津の農業の課題」について考えている子や「テーマを達成することはできていない。」と考えている子の発言に着目していない場合には、着目するよう促し、次時の課題につなげる。</p>	<p>△ア① △イ①</p>
<p>第三次</p>	<p>○寺津の農業の課題について話し合う。 ・私のお父さんや友だちのお父さんは、農家だけど、若い人は多くないと思う。 ・日本の農業の課題として、新しく農業を始める人が少ないことや高齢化などが挙げられていた。寺津の農業にも同じような課題があるのではないかな。 ・インターネットで調べてみたけど、平成</p>	<p>・宿泊体験学習や社会科の学習から、農家人口の減少や高齢化に着目する子が多いと考えるが、違う意見も出てきた場合には、「農家人口の減少（高齢化）に着目するよう促す。</p>	

	<p>22年から平成27年にかけて、寺津の農家人口は減っているみたい。</p> <p>○寺津の農業の課題と解決方法の仮説を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺津の農業の課題は、農業をする人が減っていることである。また、高齢化が進んでいることである。 ・その寺津の農業の課題を解決するため、地産地消を家族の協力を得ながら自分が実践するとともに、地産地消の取り組みを広めていく必要がある。 <p>○仮説を確かめるために、市役所や地元の企業にインタビューをしたり、地域の人にアンケートをとったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天童市役所経済部農林課の方に、「天童市の農業に対する天童市としての考えや取り組み」「課題解決のために、自分たちにもできることはあるか」を聞いてみたい。 ・天童温泉にある企業の方に、「天童市の農業に焦点を当てたツアーや体験はあるか」「地域の魅力を創ることに力をいれている〇〇さんの視点から見た時、天童市の農業のために、子供にもできることはあるか。」と聞いてみたい。 ・新聞社の方に、「山形県内で『農家人口の高齢化の解決に向けて取り組んでいる団体』『地産地消を推進している団体』などを教えてください。」とメールしてみようかな。 <p>○調査結果をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちだけの力では課題を解決することは難しいかもしれない。でも自分たちにもできることはあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの学習は「仮説をつくる→仮説を確かめるための調査→調査の結果をまとめる→結果にもとづく話し合い→一応の解決と発信・行動化」という流れで進めることを確認する。 ・子供たちがインタビューしたい企業等を見付けることができない場合には、教師からも提示する。 ・調査結果から考えたことを交流する機会をつくり、次時の学習につなげる。 	<p>△ア① △イ①</p>
<p>第四次</p>	<p>○調査結果をもとにしながら、誰に、どのように伝えるのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺津の農業の課題は、天童市や日本の課題でもあるから、できるだけ多くの人に伝えたい。 ・できるだけ多くの人ってなると、よく分からなくなるから、伝える相手はしっかりと決めた方がいい。 <p>○伝えたいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、回覧板と一緒に配布してもらえようリーフレットをつくらうかな。 ・これから大人になる。同じ小学生に伝えたい。プレゼンテーションをつくって、オンラインで伝えるといいと思う。 ・学校のHPを使って、伝えたい。どうするとHPを見てもらえるかな。 <p>○まとめたものを保護者の方やデザイナーの方に見てもらい、アドバイスをもらう。</p> <p>○自分たちがまとめたものを寺津地域内外に発信する。</p> <p>○1年間の学習をふり返る。</p> <p>○寺津の農業の課題を解決するために、自分にできることをあらためて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺津の農業の課題や天童市の農業の課題を解決するために、できるだけ地元で採 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手は、できるだけ明確にするよう支援する。（「寺津地域に住む人」「天童市で買い物をする人」「山形県内の小学生」等） ・伝える方法は、子供やグループごとに選択できるようにする。 ・伝える相手を理解した上でアドバイスをもらうことができるよう、まとめたものを見てもらうだけでなく、「誰に伝えるのか」ということを明確にする。 ・振り返りやこれからの行動指針を記述したものは、ロイロノート及びビキ 	

	れたもの買うようおうちの人に伝えていきます。大人になって、自分で買い物ができるようになったら、今回学んだことを忘れずに買い物をします。	ヤリアパスポートに保存し、いつでも見ることができるようにする。	△イ① △ウ①
--	---	---------------------------------	------------

5. 成果と課題

今年度は、栽培から販売までを全て体験することができた。昨年度の売り上げをもとに種や肥料等を用意し、昨年度の5倍以上の規模で野菜を栽培、畝づくりや土寄せなど手作業でできることは全て自分たちの手で行った。また、地域の温泉施設での販売活動では、「声をかけても反応してもらえない。」といったことがあっても諦めずに声をかけ続けた。精一杯販売活動を行った結果、県外在住の方から Google フォームで行なったアンケートを通して、あたたかいメッセージをいただくことができた。

このように農家の方が行っていることに近い体験を子供たちができたことは、本実践の成果であると考えられる。農業体験の時間を十分に確保したことによって、子供たちは「農業」を自分事として捉えることができるようになった。

子供たちの変容は、アンケート結果や授業の姿からも見とることができる。

実践成果として、本単元で育てたい ESD の資質・能力である「長期的思考力」と「つながりを尊重する態度」さらに「行動化する力」について成果が見られた。ここではアンケートによる変容と授業で教師が確認した子供たちの変容を述べていく。

1つ目は、アンケートによる変容である。

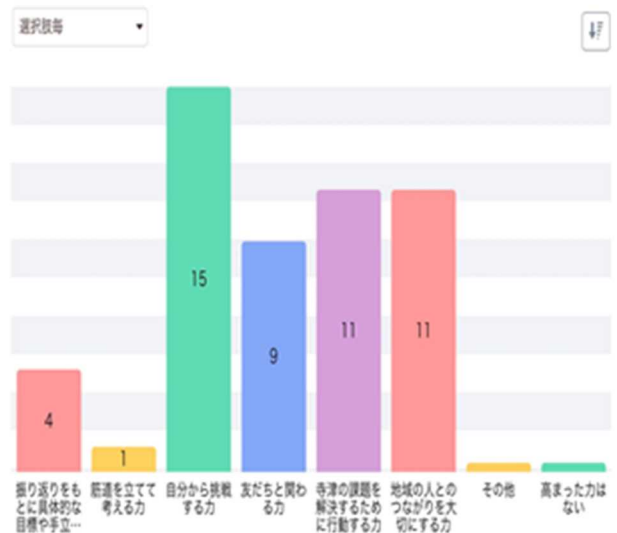
実践の中で栽培及び販売活動が終了後（12月）に、本学級の子供たちを対象に選択式で児童15名にアンケートを取った。アンケートに示されている6つの項目は、本学級でめざす子供の姿に関わる項目であるが、「寺津の課題を解決するために行動する力」「地域の人とのつながりを大切にできる力」は、本単元で育てたい ESD の資質・能力である「長期的思考力」と「つながりを尊重する態度」「行動化を生み出す力」に関わる項目と考え、このアンケートを活用した。

アンケートによれば「自分から挑戦する力」については、15名全員が高まったと答えた。また、「寺津の課題を解決するために行動する力」「地域の人とのつながりを大切にできる力」については、それぞれ11名が高まったと答えた。これにより「長期的思考力」と「つながりを尊重する態度」「行動化を生み出す力」の高まりを確認できる。

2つ目は、授業で教師が確認した価値観の変容である。「自分から挑戦する気持ちを持ち、寺津の課題を解決するために行動したり、地域の人とのつながりを大切にしたりすることができた。」と感じている子供たちが多くいるということは、本単元の成果の一つである。本単元での学習は、これからも続いていくが、現時点では「自分たちが行動を起こすことが大切である」というところまでは価値観が変容していると言えるのではないかと考える。

次に実践の課題である。これについては、先に挙げたアンケートにおいて「寺津の課題を解決するために行動する力」「地域の人とのつながりを大切にできる力」は高まっていないと考えている子がそれぞれ4名いたことである。そのように答えた子供たちは、「栽培及び販売活動は価値あるものではあるが、寺津の農業の課題を解決するための活動と言えるのか。寺津の農業について考えたと言えるのか。」と自分たちの活動を客観的に振り返ること

【1】これまでのドリームを通して、どんな力が高まりましたか。当てはまるものを全て選びましょう。



ができていよう。また、授業で振り返りを交流する場面においても、肯定的な意見が多い中、「寺津の農業について考えることができたとは言えない。寺津の農業の課題について、まだわかっていない。」と話す子を数名確認できた。

これまでの学習において、「自分たちが行動を起こすことが大切である」ということに気付くことはできているが、「寺津の農業やよさを守り繋いでいくために、数十年先のことを考えて、今、行動することが大切である。」というところまで思考が深まっていないことが本単元の課題である。また、栽培及び販売活動も価値ある活動であると考えているが、子供たち自身はその価値を理解することができていないということも課題として挙げられる。

本単元の課題を解決するためには、子供たちが「地域課題を見つけ、その地域課題を解決するために行動する。」という思考をすることができるよう支援する必要がある。そのような思考をすることができるようになると、自分たちが行っている活動の意味や意義を一人一人が理解することができるようになると考える。

現在、子供たちは、「寺津の農業の課題は、農業をする人が減っていることである。また、高齢化が進んでいることである。」「その寺津の農業の課題を解決するため、地産地消を家族の協力を得ながら自分が実践するとともに、地産地消の取り組みを広めていく必要がある。」という仮説を立て、調べ学習に取り組んでいる。この活動に取り組んでいくことによって、「住みよい寺津であり続けるためには、今から自分たちが行動を起こすことが大切である」というところまで価値観が変容すると考える。また、「[2] これからのドリームの活動を通して、どんな力を高めたいですか。」という質問に対して、11名が「筋道立てて考える力」を選択した。これからの活動は、課題が明確になっているため、情報の整理・分析も行ないやすくなる。座標軸を使って、集めた情報を整理したり、フィッシュボーン図を使って自分の考えを構造化したりするなど、学習の中で筋道立てて考える力を高める場面も設定していきたい。

本実践を通じた考察

【「探究的な学習ストーリー」をどのように描くか】

本実践では「長期的思考力」と「つながりを尊重する態度」について成果をあげた。要因として、子供の実態に即して「ESDの学習過程」の一部を長期的な学習の時間に当てて展開したことをあげる。

大西(2021)はESDの学習過程について「①導入により子供の関心・意欲が高まる→②学習課題をつくる→③仮説をつくる→④仮説を確かめるための調査・実験→⑤調査や実験の結果をまとめる→⑥結果にもとづく話し合い活動→⑦一応の解決と発信・行動化というプロセスである。」(P.257)と述べている。しかし、子供の疑問やニーズ、思考に寄り添った学習ストーリーを展開していくということを意識した際、単元の導入時に子供たちの現時点で描いている思考を修正して寺津の農業の課題に目を向けさせることは、彼らの思考の流れに反するものであると感じた。年度初めの時点で、子供たちの中には、「今年度の総合的な学習の時間では、野菜を栽培して、地域の温泉施設で販売する。」という思いがあったからである。子供たちが話し合う様子を見ているも、活動内容がすでに頭にあり、その活動内容に合わせて学習課題をつくらうとしていることが伝わってきた。

そこで、本単元では、学習を大きく2つに分けることにした。まず単元の前半、販売活動をする学習までを「①導入により子供の関心・意欲が高まる」段階として長期的な学習にあて、十分に子供たちが挑戦したいことに挑戦することができるような時間を設定した。そのような単元構成にすることによって、野菜を育てる場面や販売の準備をする場面で、自分でできることはできる限り自分でしたいと考え、行動するようになった。さらに、難しいと思っていたことを実現させたことで、自分にもできることがあると考えるようになった。

り、寺津の農業の課題を解決していきたいと考えるようになった。成果で述べた「行動化」につながる「自分から挑戦する力」を高めることができたと考える。

単元の後半においては、中澤の示す問題解決型の学習過程に子供がはまり展開していくことができている。この学習過程によって、さらに「寺津の課題を解決するために行動する力」「地域の人とのつながりを大切にする力」を高めることができるだろう。また、解決したい課題が明確になったことによって、子供たちはより理由や根拠を明らかにしながら意見を述べるができるようになるだろう。それが、「筋道立てて考える力」の高まりにもつながると考える。おそらく、単元の後半が終了するころには、「寺津の農業のために、何かしたいけど、何をすればいいかわからない。」から「寺津の農業の課題の一つとして、農家人口が減っていることと高齢化が進んでいることが挙げられる。それは、天童市や日本の農業の課題でもある。農家の方や市役所、企業の人たちもがんばってくれているけれど、私たち自身も行動していくことが大切である。できることの1つとして、地産地消がある。自分も地産地消を実践しながら、そのよさを広めていきたい。」と思考が変容しているだろう。

このように学習を展開することができた要因として、2つ挙げることができる。1つ目は「学習過程①の段階で本気で活動したこと」、2つ目は「単元の初めに地域課題の視点をもたせたこと」である。前述したように、子供たちは、自分たちの目標に向かって本気で活動したことによって「自分から挑戦する力」が高め、寺津の農業のために自分にはできないことはないか考えるようになった。さらに、年度初めに私が『寺津の農業の課題について考える』という視点ももっていると良いのではないかと話していたことや社会科の関連する単元で学んだことなどから思考を広げ、「寺津の農業の課題を調べ、見つけた課題を解決していきたい。」と考えるようになった。そのような思考の流れになれば、子供たちは自然と問題解決型のストーリーを展開するようになる。単元後半では、問題を解決しようとする中で、自分の力を高めたり、寺津の農業のために行動したりしていくことができている。

大西(2021)の学習過程を展開していくことがESDの基本であると考え。本学級の子供たちも、来年度の学習では、今年度の学びを生かして、「①導入により子供の関心・意欲が高まる→②学習課題をつくる→③仮説をつくる→④仮説を確かめるための調査・実験→⑤調査や実験の結果をまとめる→⑥結果にもとづく話し合い活動→⑦一応の解決と発信・行動化」と学びを繋いでいこう。

しかし、子供の実態によっては、基本的な学習過程と違うストーリーを描く必要もあるのではないかと考える。本実践を考えるにあたり、活動にばかり目が向いている子供たちとどのように学習を進めるか、悩むことが多くあった。試行錯誤しながら実践を進めてきたが、アンケート結果や各教科等における子供たちの姿を見ると、単元前半を「①導入により子供の関心・意欲が高まる」の時間であると捉え、子供たちがやりたいことをやり切る時間を確保することで、題材が自分事となり、その後の学習活動の学びに火をつけ、本実践におけるESDの資質能力の高まりを得るのであると考察する。

子供の思いや実態と教師の思いをどのように単元に落とし込んでいくのか。ESDにおいて、教師の単元デザイン力は非常に重要な力であると学ぶことができた。